



# 北海道立近代美術館

## 鑑賞学習支援ツール 活用の手引き



鑑賞学習支援ツールは、北海道立美術館・芸術館の所蔵品を活用した美術鑑賞教材です。貸出は**無料**。学校以外の団体も利用できます。

### [アートカード]

北海道立美術館・芸術館の所蔵品 64 点をはがきサイズのカードにしました。教材として、ゲームのように楽しく遊びながら美術鑑賞について関心を高めてもらうことが目的です。カードの組み合わせや、比較をして遊んだり、得られた気づきについて対話をしたりすることで、鑑賞教育の要素である「観る」「感じる」「考える」「伝える」などの能力の向上を図ります。

美術や図工の授業のツールとしてのご利用はもちろん、美術館・芸術館へご来館いただくための事前レクチャーにも、お役立てください。



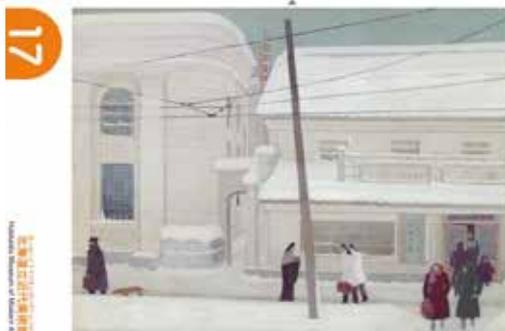
1セットに8箱入っているので、グループ学習にも使えます。

1箱64枚×8箱で1セット

▶【活用ガイド】と【作家・作品解説】を同梱



2023年 札幌市立緑丘小学校の授業の様子



カードには作品名などはなく、画像だけなので、想像力が広がります。

## どさんこついでのおまき 〔複製〈道産子追憶之巻〉〕

北海道江部乙（現・滝川市）出身、西欧近代の美術思潮に影響を受けながら日本画を学んで、自然現象や風景を壮大なスケールで描き、高い評価を得た岩橋英遠<sup>いわはしえいえん</sup>。その画業の集大成ともいえる北海道の四季を絵巻形式で描いた代表作（実作品は全長約 29 疋）を、32 の場面に分割したシートに複製。北海道の自然を見つめ直し、また四季の様子をつなげてみるなど、「観る」「感じる」「考える」の授業にお役立てください。実物の 1/2 サイズの巻子もあります。



〈道産子追憶之巻〉  
紹介動画はこちら  
（北海道リモート  
ミュージアム）



### 複製シート

- ▶〈道産子追憶之巻〉を 32 分割
- ▶ 1 組 32 シート（1 シートのサイズ約縦 40× 横 60cm）  
・連結で約 20m（実物の約 2/3）

### かんす 複製巻子

- ▶ 1 枚、サイズ約縦 32× 横 1452cm（実物の約 1/2）

### フロアスタンド 1 セット（45 本）

- ▶ 台座部分幅約 30cm、高さ 145 ～ 250cm まで可動。  
※台座とスタンド部分に分割。スタンド上部のクリップで、シート・巻子の固定が可能。
- ▶ 複製シートで使う場合  
※フロアスタンド 1 本にシート 1 枚を固定し、作品が完成するようつなげる活動が可能。
- ▶ 巻子で使う場合  
※1 巻につき 9 本使用。巻物の裏面とフロアスタンドに付いているマジックテープで固定。

シート状になっているので、床置きでも使えます。

ロール状になっていて、フロアスタンドに固定します。



2016年 札幌市立鴻城小学校の授業の様子

### 貸出の流れ

#### 1. 申込

お電話でストックの有無を確認のうえ、利用申込書を FAX でお送りください。  
※申込書は HP からダウンロードできます

#### 2. 貸出

受取方法：来館または宅配便で（送料はご利用者でご負担をお願いします。）  
期間：原則 3 ヶ月以内（3 ヶ月を超える場合は、ご相談ください。）

#### 3. 授業等で活用

#### 4. 返却

美術館・芸術館にご返却ください。

お問い合わせ  
北海道立近代美術館

札幌市中央区北 1 条西 17 丁目  
TEL/ 011-644-6882 FAX/ 011-644-6885  
kinbi.gakugei1@pref.hokkaido.lg.jp  
※お近くの北海道立美術館・芸術館からも貸出できます。

学習（評価）において期待できる項目を大小で示しています

## 【アートカード活用例】

### 鑑賞教育における評価のポイント

#### ○小学校1・2年生

- ・自分の感覚や行為を通して、形や色などに気づくことができる。
- ・形や色などを基に、自分のイメージを持つことができる。

#### ○小学校3・4年生

- ・自分の感覚や行為を通して、形や色の組み合わせなどの感じをとらえることができる。
- ・形や色の組み合わせなどの感じを基に、自分のイメージを持つことができる。

#### ○小学校5・6年生

- ・自分の感覚や行為を通して、形や色、動き、奥行き、バランス、鮮やかさなどの特徴を理解することができる。
- ・形や色、形や色、動き、奥行き、バランス、鮮やかさなどの特徴を基に、自分のイメージを持つことができる。

#### ○中学生

- ・形や色彩、材料、光などの性質やそれらがもたらす感情を理解することができる。
- ・形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージを捉えることができる。

### 1 連想絵つなぎ

【人数】3~6人程度

【時間】30分~45分

【対象】全学年

【遊び方】

①カードを5枚ずつ配り、残りは中央に置いて山にする。山の1番上のカードをめくって横に置き、これを場札とする。

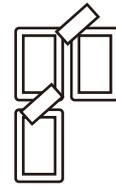
②順番を決めて、場札の絵柄と関連のある手札を1枚探し、上下左右に並べて置く。その際、どんな点が関連しているのか説明し、全員が認めればOK。（説明を付箋に書いて間に貼り付けておくと、共通項がよりわかりやすくなる。）どこにも置けなかったり、説明に納得してもらえなかった場合は手札に戻す。

③これを繰り返す、誰か一人の手持ちのカードがなくなったら終了。

【学習（評価）のポイント】

形や色、特徴に注目して作品を見る。それを言葉であらわす。

つながりを発見！



### 2 神経衰弱

【人数】3~6人

【時間】45分~1時間

【対象】全学年

【遊び方】

- ①すべてのカードを裏向きにしてならべる。
- ②順番を決め、1番目の人が2枚カードをめくる。
- ③めくったカードの共通点を探して説明する。全員が認めればカードを手に入れることができる。手に入れた場合は、さらに連続でめくることができる。認められなかった場合や共通点が見つからなかった場合はめくったカードを元にもどし、次の人に回す。
- ④全てのカードをめくり終えた時、またはこれ以上共通点を見つけれなくなったら終了。

【学習（評価）のポイント】

形や色、特徴に注目して作品を見る。それを言葉であらわす。



### 3 名探偵ゲーム

【人数】3~10人

【時間】30分~45分

【対象】全学年

【遊び方】

- ①10枚程度を表向きにしてならべる。
- ②親を決め、その親は心の中でカードを1枚選ぶ。
- ③親以外の参加者（探偵）は順番に、カードについて「はい・いいえ」で答えられる質問をする。「人が描かれていますか？」「明るい絵ですか？」など。親はできるだけ「はい・いいえ」で答える（「わからない」ということもできる）
- ④全員の質問が終わったら、親以外の全員で推理した絵を一斉に指差す。
- ⑤当たったら、当たった人が次の親になる。当たらなかったときにはもう一周質問を繰り返す。

【学習（評価）のポイント】

作品どうしを比較し、言葉から作品の特徴を考える。

これがあたり？！





## 4 作品しりとり

【人数】3~6人

【時間】30分~45分

【対象】全学年

【遊び方】

- ①カードをそれぞれに5枚ずつ配り、残りは伏せて山にする。
- ②それぞれ手持ちのカードを1枚だして、そこに描かれているものや色、イメージなどの単語をいう。「海」が描かれていたら「うみ」など。全員が認めればOK。
- ③次の人は、しりとりと同様に、前のカードの言葉に続く言葉を手持ちのカードから探し、場に出して繋げていく。「海」の次は「みどり」など。これを繰り返し、誰か一人のカードがなくなったら終了。

【学習(評価)のポイント】

- ・作品の特徴をさがして言葉であらわす。作品どうしを組み合わせさせて共通点を見つけ出す。
- ・他者の言葉を聞いて、異なる視点があることを知る。



## 5 4コマ漫画をつくろう

【人数】3~10人

【時間】45分~1時間

【対象】小学校中・高学年~

【遊び方】

- ①カードをそれぞれに4枚ずつ配り、残りは中央に置いて山にする。
- ②手持ちのカードを使って4コマ漫画のように、起承転結のストーリーを作る。どうしても思いつかない場合は、山から1枚引き、手持ちのカードの1枚を山の一番下に置く。
- ③お互いに自分たちの作ったストーリーを発表し合い、一番ユニークなもの、展開が良かったものなどを選び、グループの中で代表を決める。
- ④最後にグループごとのストーリー発表会を行う。

【学習(評価)のポイント】

- 作品を組み合わせさせて鑑賞する。作品から感情を感じ取る。



## 6 四季折々

【人数】3~10人

【時間】45分~1時間

【対象】全学年

【遊び方】

- ①すべてのカードを表向きにしてならべる。
- ②順番を決め、春・夏・秋・冬のイメージに合っている作品を、1人1枚ずつ順番にカードを選んで取っていく。そのときに作品を選んだ理由を説明できるようにしておく。
- ③選んだカードについて発表する。

【学習(評価)のポイント】

- 形や色、特徴に注目して作品を見る。それを言葉であらわす。



## 7 展覧会をつくろう

【人数】3~6人

【時間】45分~1時間

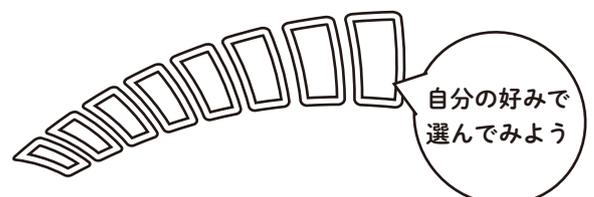
【対象】小学校中・高学年~

【遊び方】

- ①すべてのカードを表向きにしてならべる。
- ②それぞれに展覧会のテーマを考え(春、海、人物など)、1人1枚ずつ順番にカードを選んで取っていく。
- ③8枚選んだところで、展覧会のテーマと絵を選んだ理由などを発表し合う。
- ④最後にグループの代表テーマを決め、参加者全員で作品を追加で選び、12枚まで増やす。その後、教室内全体での展覧会発表会を行う。

【学習(評価)のポイント】

- テーマに合う作品を考えて選ぶ。作品どうしを組み合わせる。



# [ 道産子追憶之巻活用例 ]

## 1 つなげてみよう 形や色 組合せ

〈道産子追憶之巻〉複製シート(幅60cm)を、右から左へ、冬から春・夏へと絵柄がつながるように並べていく。季節の移り変わりによって風景や登場するものがどのように変わっていくか、話し合いながら作業する。並べ終わったら、それぞれ見つけた四季の変化を発表する。

## 2 巻物ってなんだろう 特徴 組合せ

〈道産子追憶之巻〉複製卷子(14m)を教室にぐるりと取り囲むように展示し、右から左へ展開する絵を鑑賞する。季節や自然の移り変わりがどのように描かれているかを、メモしながら鑑賞し、発表し合う。

## 3 ストーリーを考えよう 感情

描かれている人や動物になりきって、絵の中に入り込み、周囲の風景や季節、時間や天気などを読み取りながら、営まれている生活をストーリーにし、発表し合う。



実際の作品はこのような展示しています

2/3 複製シート：20m

約 29m の画面に  
北海道の四季を描いた  
岩橋英遠 《道産子追憶之巻》

